

教育目標:	○よく考える子	○思いやりのある子	○じょうぶな子	○進んでやる子
目指す学校像:	【安心】一人一人の居場所と心身の安全・安心がある学校 【信頼】保護者・地域と協力し、信頼される学校 【成長】互いに高め合い、喜びや達成感を抱ける学校 【元気】エネルギーに満ちた活力ある学校			
目指す児童・生徒像:	○正しい行動への判断基準に基づき、人のため、社会のために役立つ行動ができ、困難を乗り越え、粘り強く挑戦することができる子。			
目指す教師像:	○児童、保護者、地域の方から信頼される教職員 ○教育への情熱、創意工夫と向上心をもつ教職員 ○心身ともに健康に生活することの意義と方策を学び、保護者や地域と共に児童が健やかに育つよう努める教職員 ○組織の一員として学校運営に参画できる教職員			

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
確かな学力の育成	実際の社会や生活で役立つ知識や未知の状況でも対応できる判断力等の自立と自己実現を図る資質や能力を育てる。	すべての児童にとって、学びやすい環境を整備する。	個に応じた指導の充実やICT機器の積極的な活用など、具体的な手立てを工夫する。	3	3	4	3	肯定的評価が上がらなかったのは、「タブレット端末をより多様な場面で活用して学習したい」という児童の意欲の表れでもある。また、低学年の保護者ほど肯定的な回答の割合が低い。それは、文字を書く指導の大切さを重視している傾向の表れでもある。	タブレット端末については、発達段階に応じて各学年で系統的に指導し、積極的に活用していく。今後も学校公開でタブレットを活用した授業を公開したり、児童がタブレットで作成した作品を掲示したりすることで、保護者・地域に向けて分かりやすく発信していく。
		主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善を行う。	校内研究やOJT研修の充実を図り、教師の授業力や指導力の向上を図る。	/	4	/	4	9割以上の児童が肯定的に回答しており、授業改善の取組が成果を上げていると考えられる。ただ、どの学年も一定の割合で学習に苦手意識のある児童がおり、次の学年に向けて、苦手意識を克服できるよう個別の支援を継続していく必要がある。	児童が「主体的に表現し、学び合う」力を身に付け、保護者がそれを実感できるような授業を実践できるよう、授業改善プランを基に引き続き授業改善を進めていく。また、保護者会や学校公開・学校ブログ等を通して、授業の様子を積極的に発信していく。
豊かな心の育成	人権と生命を尊重する教育活動を通して、相手を思いやり仲間を大切に、思いを寄せ合い響き合える心温かい児童を育てる。	基本的生活習慣の徹底を図り、規律と秩序ある学校づくりを推進する。	あいさつ運動の取組、「八小生活の約束」をもとに基本的生活習慣を身に付けさせる。	4	4	3	3	どの学年についても、自分からすすんであいさつすることに課題がある。しかし、アンケートでは高学年の肯定的な回答の割合が高い。高学年の意識の高さを褒め励ますことで、高学年が良い手本となり、学校全体でも自分からあいさつをする児童を増やしていく。	あいさつの習慣を定着させられるように、相手意識をもたせたあいさつの指導を繰り返していく。また、地域や保護者の方へすすんであいさつする姿勢を教職員が率先して手本を示す。
		自尊感情や自己肯定感を育み、豊かな心を育てる。	いじめの予防や早期発見・早期対応への取組や道徳・特別活動等で思いやりの心を育てる。	/	4	/	4	児童アンケートでは昨年よりも肯定的な割合が増加している。また9割以上の保護者が肯定的な回答をしている。友達のことを大切に思い、優しくしようとする意欲が育ってきており、「特別の教科道徳」や異学年交流・人権標語等の取組の成果が表れている。	「優しい気持ちや親切な態度」は学校と家庭・地域が両輪となって育んでいく必要がある。学校では「特別の教科道徳」や教育活動全体を通して、引き続き集団生活の中で人を思いやり互いに助け合う気持ちと態度を育てていく。
健やかな心と体の育成	健全な生活習慣を身に付け、生涯を通して運動を楽しむとともに、健全な心を維持できる資質・能力を育む。	地域や保護者と連携して、体力の向上・食育の推進・心身の健康・安全への意識の向上を図る教育活動を実践・継続する。	体育の授業改善や一学級一取組等での取組において、多くの児童が楽しめるよう工夫する。	4	4	3	3	2学期末、急激に寒さが増し、外遊びをする児童が減少している。また高学年になるほど肯定的な回答が減少している。保護者アンケートでも、同様に高学年になるにつれて否定的な回答の割合が増加している。	引き続き学校全体で持久走や長縄に取り組んだり、クラス遊びの工夫を共有したりする。また保健の学習で運動の大切さを指導したり、放課後の過ごし方についても身体を動かせるような取組を学校から積極的に発信したりしていく必要がある。
		児童が自ら心身の健康を大切にできる力や意欲を育てよう、計画的・継続的に働きかける。	児童が自ら心身の健康を大切にできる力や意欲を育てよう、計画的・継続的に働きかける。	/	4	/	3	約8割の児童が、「給食を好ききらいせずによく食べている」と回答している。給食の時間に保健給食委員会が献立や栄養について伝える全校放送を今年度から始めた成果だと考えられる。保護者については肯定的な回答が7割に留まった。	学級活動や家庭科学習の充実、日々の給食指導を通して食育の充実を図り、栄養バランスの大切さに気付かせていく。また、栄養士と学級担任が連携しながら栄養バランスの大切さを指導していくとともに、その取組を積極的に保護者・地域に発信していく。
家庭・地域との連携・協働	コミュニティ・スクール組織を活用し、保護者・地域と連携し、地域人材や知的・文化的・歴史的環境を生かした教育活動を国分寺学として位置付け、推進する。	組織を活用して、人材や環境等、地域の教育力を引き出し、連携を強化する。	学校支援ボランティアや地域関係機関と連携した体験的な地域学習(国分寺学)の充実を図る。	4	3	4	4	国分寺学をもとに、地域の方と関わりながら学習を進めることができた。しかし、学年が上がると肯定的な回答が減少する傾向が見られた。高学年でも、実際に見学したり、地域の方をゲストティーチャーに招いて学習したりする活動を充実させる必要がある。	全学年で実際に見学したり、地域の方を講師に招いて学習したりする活動を充実させるため、学習内容の精選・充実を図っていく。国分寺学を軸に、年間を通して地域の方々と関わり、どの学年でも地域への誇りと愛着を育むような学習を行えるよう体制を整えていく。
		学校の情報を発信し、開かれた学校の具現化を目指す。	各種お便り、CS実行委員会、学校公開、学校説明会、ブログ等を活用して情報を発信する。	/	4	/	4	学校連絡ツールを活用した学校便り等の配布について、保護者から一定の理解を得られていると考える。また、CS実行委員会の協力を得て、CSと協働した行事や「おとなの国分寺学」を実施でき、学校支援ボランティアやサポーターの支援を活用できたことも大きな成果である。	学校だよりや学校ブログをより一層充実させ、学校の教育活動の具体的な取組や児童の様子を伝えていく。また、学校行事やCS主催の催しに保護者や地域の方が参加・協力できるよう、スクールメールや学校連絡ツールを活用しより積極的に広報を行っていく。